

アイスリン・ヤネックによるワークショップ @六甲山サイレンスリゾート



AKIRA ART ROOM

梅雨入りの知らせが届いたばかりの頃でしたが、ワークショップ当日の六甲山は驚くほど清々しい青空に包まれていました。

六甲ブルーとも言われる紫陽花が咲き誇るには少し早かったけれど、その代わりに子どもたちのクリエイティビティが満開を過ごし、爆発した一日となりました。



ワークショップ冒頭にまずはデモンストレーションをするアイスリンと好奇心いっぱいな子供たち！みんな前のめりでユポの上のインクの動きに見入っていました！



アイスリンの優しい問いかけに導かれながら、子どもたちは自由に色を重ね、形を生み出し、それぞれの想像の世界をのびのびと表現してくれました。ワークショップでアイスリンが何度も繰り返していたのはアートに正解・不正解はないから、みんなが表現したいことを自由に描いて！ということでした。

開催概要

開催日時: 2026年6月6日
会場: 六甲山サイレンスリゾート
講師: アイスリン・ヤネック
参加人数: 31名

ワークショップ内容

- 1) アイスリン自己紹介 (10分)
- 2) プロジェクトの説明およびアイスリンによるデモンストレーション (20分)
- 3) プロジェクトスタート (50分)
- 4) クロージング (本日の感想+お掃除) (10分)

六甲山サイレンスリゾートについて

今回のワークショップ会場となった六甲山サイレンスリゾートは、1929年に開業した名門・旧六甲山ホテルの歴史を受け継ぐ文化施設です。六甲山の豊かな自然に囲まれたこの場所は、かつて多くの文化人や知識人が訪れ、思索を深めた「天空のリゾート」として知られています。

標高約900mの六甲山には四季折々の自然が広がり、眼下には神戸の街並みと瀬戸内海を望むことができます。その静寂と開放感に満ちた環境は、日常から少し距離を置き、自分自身の感性と向き合う創作の時間に最適な舞台となりました。



ユポとの出会い、そして今回のワークショップについて



----- アイスリン・ヤネック

アメリカ出身のミックスメディアアーティスト、アイスリン・ヤネックが初めてユポに出会ったのは2016年、学生時代のことでした。当時、さまざまな素材を用いた表現を模索していた彼女は、従来の紙とは異なる特性を持つ支持体を探していました。ユポの最大の魅力は、水彩やインクが紙に吸収されず表面に留まることです。その特性により、インクをストローで吹いたり、紙を傾けたりしながら偶然生まれる流れや広がりや作品に取り込むことができます。この発見は、後に彼女の代表的なシリーズとなる「Fragmentation Series (断片化シリーズ)」へと発展しました。



最初は少し恥ずかしがり屋さんだった女の子も作品が出来上がる頃にはすっかりアイスリン先生と仲良くなりました！可愛い二人！

その後、ギリシャ、アルバニア、チェコ、アメリカと複数の国を行き来する生活の中で、異なる文化や言語に触れた経験が作品制作に大きな影響を与えました。コラージュによる幾何学的な構造と、ユポの上で自由に広がるインク。その対比は、「秩序と偶然」「構造と流動性」「永続性と儚さ」といった、彼女が一貫して探求しているテーマを象徴しています。

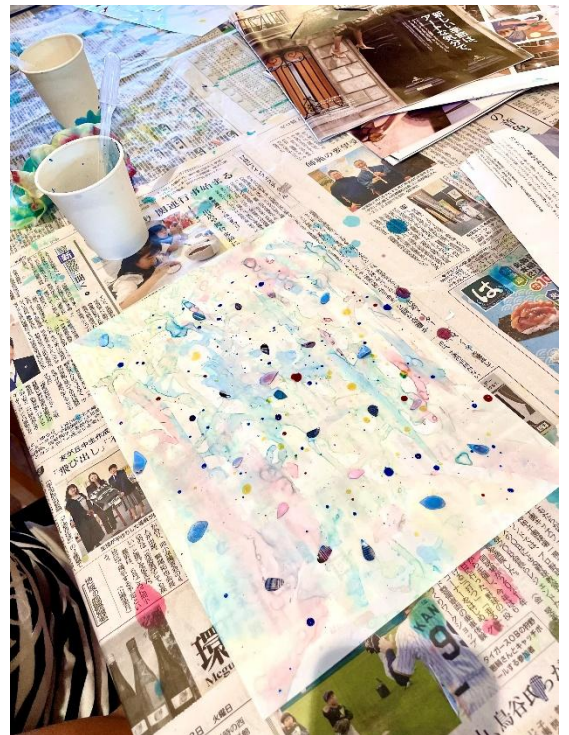


インクのしびきが印象的な躍動感あふれる作品

アイスリンは近年、伝統的な手漉き紙の制作にも取り組んでいますが、ユポのような革新的な素材との共存を大切にしています。伝統を尊重しながら新しい表現を探求すること、その両方があるこそ創作は発展し続けると考えているからです。



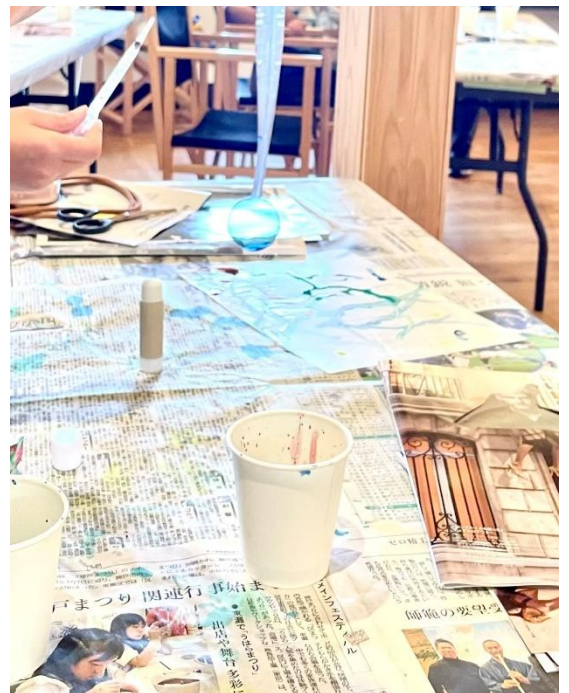
こちらは親御さんの作品。大人だって負けてもらえませんっ！！



はっきりした色で表現する作品が多い中、淡い色で優しさあふれる世界観を創り出しました。

今回のワークショップでは、参加者のみなさまにユポならではの特性を実際に体験していただきました。インクを垂らし、傾け、息で動かしながら、完成されたイメージを追い求めるのではなく、素材との対話を楽しみながら表現を生み出していく時間となりました。

子供たちの創造力はまるでユポの上のインクのように無限に自由に広がり、大人たちには考えつかないような作品が生まれました。こちらに紹介したのはそんな小さな巨匠たちの作品より、ごく一部です。



アイスリン自身も、長年親しんできたユポを日本のみなさまと共有できたことを大変喜んでおり、この貴重な機会をご提供くださった株式会社ユポ・コーポレーションのみなさまに心より感謝しております。改めてありがとうございました。